

事業報告書

【課題名】 令和6年度特別展「自然の“国宝”展～天然記念物からみた埼玉の自然～」

【交付番号】 24002

【機関名および氏名】 埼玉県立川の博物館 館長 小川義和

【趣旨】

埼玉には、自然の“国宝”こと特別天然記念物が4件登録されているほか、シラコバトをはじめとする国や県指定の天然記念物が多数所在する。文化財保護制度の仕組みや、県内の自然や人との関わりの歴史を物語る天然記念物を解説するとともに、それらを守ろうとする人々の活動を紹介する。

【担当者】 学芸グループ 板垣ひより・三瓶ゆりか

【展示構成と資料】

1 はじめに

県内に所在する計4件の自然の“国宝”（特別天然記念物）を紹介し、文化財保護法の仕組みについて体系図を用いて解説。

(1) 天然記念物指定制度の誕生と文化財指定文化財制度の確立までの歴史的経緯について表を用いて解説。

(2) 渋沢栄一も訪れたフジの名所

牛島のフジについて、写真絵葉書や天然記念物指定の祝賀会の写真とともに、今年、新一万円札の顔となった渋沢栄一も訪れた名所として紹介。



2 ようこそ！めくるめく自然の“国宝”の世界へ

全国の特別天然記念物を一覧表で紹介し、オガサワラオオコウモリ、アホウドリ、アカガシラカラスバト、トキ、タンチョウ、ライチョウ、小国鶏など鳥類を中心に剥製を展示（写真右）。



3 守れ！天然記念物

(1) 上流域の天然記念物

武甲山石灰岩地特殊植物群落を代表する植物（ミヤマスカシユリ、チチブイワザクラ、アオネカズラ）やステゴビルのレプリカ他、フクジュソウ、ウラジロ、コシダなど群落が天然記念物に指定されている植物のさく葉標本、ブッポウソウやヤマネの剥製を展示。

(2) 荒川中流・下流域の天然記念物

サクラソウのレプリカやさく葉標本と共に、書籍「天然記念物調査報告書植物部」にてサクラソウが初めて天然記念物として紹介された頁を展示。ムサシトミヨ・ミヤコタナゴの樹脂包埋標本、石戸蒲ザクラのさく葉標本、ムジナモのレプリカや自生地である宝蔵寺沼地図を展示し、併せて市民団体や行政、研究機関によるこれら天然記念物の保全活動を紹介。

(3) 地質鉱物の天然記念物

荒川流域にみられる地質鉱物の天然記念物を紹介。鉱物として赤鉄石英片岩、鏡面構造を持つ岩石、三波岩、ポットホール、新田橋の礫岩など岩石を展示し、天然記念物および名勝指定から今年で100周年を迎える長瀬の写真や版画、絵葉書、観光地用パンフレットなどを展示。地質の天然記念物として古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群を紹介し、パレオパラドキシアのレプリカ他、オガノヒゲクジラ頭骨化石、チチブサワラ骨格化石、カルカロドンメガロドン歯群化石、アケボノゾウ骨格化石の計4点の実物化石を展示。



※巡回展 「令和5年度古秩父湾Instagramフォト&書コンテスト入選作品展」

自然の博物館が主催するコンテストの入選作品（写真部門7点、書道部門5点）を展示し、古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群の保存活用計画の一例として紹介。

4 巨樹・古木の天然記念物

与野の大カヤ、上谷の大クス、並木の大クス、脚折のケヤキなど、県内の巨樹・古木に関する天然記念物を写真で紹介。コラムで指定が解除された天然記念物を解説した。

5 シラコバトから埼玉の自然が見える

(1) シラコバトを取り巻く状況の変遷

日本に持ち込まれてから現在に至るまでのシラコバトに関する出来事を表で解説。

環境科学国際センターが保護対策として実施している県内におけるシラコバトの目撃情報の募集を呼び掛けた。

(2) 大混乱！？シラコバトの名前

江戸時代に記された「鳥類図鑑」や「本草余纂」に記載のある「斑鳩」が、シラコバトだけでなく、複数の鳥を指していたことを紹介。シラコバト、ジュズカケバト、キジバト、キンバト、イカルの剥製を展示。

(3) 鷹狩が守ったシラコバト

大名鷹狩絵巻を展示し、江戸大名のための鷹狩の土地、御鷹場がシラコバトの繁殖地となったことを解説。近年では、宮内庁が管理する埼玉鴨場がシラコバトの限られた生息地となっていることを解説。

6 「ニク」とよばれた自然の“国宝”カモシカ

※展示室中央に4頭のカモシカ剥製を並べた“カモシカウォーク”を展示（写真下）。

(1) 日本固有のウシ、カモシカ

縄文時代から本邦に分布するカモシカについて解説し、秩父市大滝の洞窟から出土したカモシカの臼歯と共に、現生のカモシカの頭骨を上顎・下顎に分けて展示。カモシカの歯の作りについてもパネルで解説した。また、カモシカがシカの仲間としてよく間違われることから、角に着目して2種の違いを比較できるように、カモシカの全身骨格とシカの角（ゴボウ角、2～3回分枝）を展示した。



(2) カモシカと人との関わり

カモシカの名前の由来を示す資料「本草余纂」および「大和本草」を展示（写真右）。

(3) 資源としてのカモシカ

カモシカの角を加工してつくられた烏口のついた玉入れを展示。カモシカの毛皮3枚と米俵3つを載せた大八車を展示し、毛皮が明治時代まで米1俵と同じ現金収入があったことを解説。



(4) シンボルとなったカモシカ

昭和47年の中国との国交正常化を記念して、カモシカ2頭が日本から中国へ贈られたことを紹介するとともに、中国から日本へ贈られたジャイアントパンダ（カンカン）の剥製を展示（写真右）。



(5) カモシカの食害と調査

カモシカの捕獲頭数の推移や、関東山地におけるカモシカの保護地域、埼玉県内でのカモシカの分布など図を用いて県内におけるカモシカの現在について解説。

(6) コラム：カモシカ調査に行ってみた！

秩父市大滝で行われた調査の様子を写真で紹介。

(7) カメラが捉えたカモシカ

県内の定点カメラが捉えたカモシカの姿を写真で紹介。

(8) さまざまなモチーフとしてのカモシカ

JR長野駅キャラクター「ながも」のパネルを展示し、モチーフとして人気のあるカモシカについて解説。

7 文化財でなくとも遺したいもの

(1) 文化財保護法以外で守られているもの

種の保存法について紹介。

(2) 後世に遺したいもの--合角ダムと総合調査-

合角ダムの建設にあたって水没した小鹿野町合角地区で行われた調査について紹介。この時採集されたチョウ類・トンボ類の標本の他、地理・地形・地質・植物・動物・歴史・民俗・考古など多岐にわたる部門で収集された資料台帳の一部を展示。ダムの建設前後で変わった景観を紹介するため「秩父合角ダム水没地域総合調査報告書」も展示した。

8 生体展示

本館1Fリバーホールに水槽を設置し、種そのものや生息地が天然記念物に指定されている、ムサシトミヨ・ミヤコタナゴ・ムジナモを展示。パネルではそれぞれの生態や保全団体の取り組みを紹介し、会期中に開花したムジナモも随時展示した（写真右）。



【印刷物】

チラシ：20,000部／ポスター：600部／図録：700部

※株式会社エコー宣伝印刷

【メディア紹介】

- ・よりい COLORS 2024年6・7月号
- ・彩の国だより 2024年7月号
- ・ゆあ東上 2024年7月号
- ・埼玉新聞 2024年7月2日・13日
- ・埼玉よみうり 2024年7月19日
- ・PRTIMES 2024年7月31日
- ・BIRDER 2024年8月号
- ・埼玉中央読売 2024年8月9日
- ・NHK 第一放送「マイアサ」2024年8月16日
- ・テレビ埼玉 2024年8月26日
- ・読売新聞 2024年8月27日

【入場者数】 合計 27,032名（7月：10,062人、8月：16,674人、9月：296人）

【イベント】

1. 展示解説

日時：7月7日（日）・8月17日（土）①11時30分～12時 ②14時30分～15時

内容：本展示を企画・監修した学芸員が展示の見どころを解説した。

講師：北川博道氏（埼玉県立自然の博物館）

場所：第2展示室

参加者：63名（7月7日35名・8月17日28名）

2. 観察会「さいたま水族館と宝蔵寺沼ムジナモ自生地見学会」

日時：7月21日（日）10時～12時

内容：ムジナモとその自生地の話を聞いて、水族館での栽培の様子の見学（バックヤードツアー）、宝蔵寺沼に入ってムジナモの観察を行った（写真右）。

共催：羽生市教育委員会

講師：さいたま水族館 飼育員

尾花幸男氏（羽生市ムジナモ保存

会）



山崎吉弘氏（羽生市郷土資料館）

場所：さいたま水族館・宝蔵寺沼（羽生市）

参加者：18名

3. 講演会「天然記念物の化石たち」

日時：7月28日（日）10時～11時

内容：埼玉の大地のなりたちを天然記念物の露頭で見られる地層から解説し、県内で産出する化石から見える当時の環境や生物の生き方を紹介した。

講師：北川博道氏（埼玉県立自然の博物館）

場所：ふれあいホール

参加者：29名

4. ムジナモストラップづくり

日時：8月6日（火）

① 10時30分～ ②11時30分～ ③
13時30分～ ④14時30分～

内容：ムジナモの輪葉を使ったストラップづくりを体験した（写真右）。

講師：福地秀夫氏

（羽生市ムジナモ保存会）

場所：ふれあいホール

参加者：86名



5. 講演会「巨樹を楽しむ」

日時：8月24日（土）10時～12時

内容：石戸蒲ザクラ（北本市）など、県内に所在する国・県指定の天然記念物の巨樹の魅力を3名の講演者が植物学や民俗学などの多角的な視点から語った（写真右）。

講師：大久根茂氏

（全国巨樹・巨木林の会）

坂田敏行氏

（北本市教育委員会 文化財保護課）

須田大樹氏（埼玉県教育委員会 文化財・博物館課）

場所：ふれあいホール

参加者：46名



【協力者（敬称略）】

會田 真言・石井 徹尚・小鹿野町教育委員会・小川町教育委員会・春日部市教育委員会・春日部市郷土資料館・環境省・北本市教育委員会・京都大学附属図書館・宮内公文書館・宮内庁埼玉鴨場・宮内庁書陵部・熊谷市環境政策課・熊谷市教育委員会・熊谷市ムサシトミヨ保護センター・公益財団法人 東京動物園協会・国立印刷局・国立国会図書館・古秩父湾作業部会・埼玉県環境科学国際センター・埼玉県教育局文化財・博物館課・埼玉県みどり自然課・埼玉県立さいたま水族館・埼玉県立さきたま史跡の博物館・埼玉県立文書館・埼玉県立歴史と民俗の博物館・さいたま市教育委員会・JR 東日本長野駅・慈光寺・市立大町山岳博物館・須田 大樹・多摩動物公園・東京大学秩父演習林・東武動物公園・所沢市立埋蔵文化財調査センター・滑川町エコミュージアムセンター・滑川町教育委員会・羽生市教育委員会・羽生市郷土資料館・羽生市ムジナモ保存会・文化庁・寶幢寺・松本啓之亮・山中 隆平・有限会社 藤花園・寄居町教育委員会

【助成金】

- ・全国科学博物館活動等助成事業（2024 年度） 助成金額：40 万円
- ・2024 年度（第 32 回）公益信託武蔵野銀行みどりの基金 助成金額：20 万円

【成果と今後の課題】

本展示を通じて天然記念物そのものだけでなく、市民団体や行政による地道な保全活動についても広く発信することができた。特に、第 2 展示室中央に設置したカモシカウォークやリバーホールの生体展示は来館者の興味関心を集め、市民団体・行政からの協力を得て開催したイベントにも多くの方が参加した。会期中、新聞やテレビ等のメディア以外にも SNS を活用した情報発信を行った。アンケート調査では、「(天然記念物に対する) 興味がわいた」、「(自分でも) 調べてみたい」「このきっかけを生かしていきたい」などの声が寄せられており、天然記念物の重要性やその保全活動への更なる理解など、今後の波及効果が期待できる。また、夏休み期間ということもあってか、来館者の約 4 割が関東近郊の他県から足を運んだ。

展示品や画像借用にかかる申請に加え天然記念物の展示に伴う現状変更許可申請が 5 件、種の保存法にかかる手続きが 2 件あり、不慣れな手続きに時間と労力を要した。今後は手続きのながれをまとめたマニュアルを作成し、学芸グループ内で共有を図る必要がある。